

ああ、結婚！

一婚活日記一

第12回

黒田長宏

<2019年8月4日>

早めに編集長に38号用原稿をメールした。これからユーチューブに婚難救助隊の宣伝をアップしたら、昼ごはんにしよう。

<8月16日>

お盆中にいとこの子供が30代となり男女二人が婚活の時期にいることを知り、いとこである親に、婚難救助隊ではなく、茨城出会いサポートセンターを紹介した。これはいい活動をしたはずだ。昨夜は、『名もなく貧しく美しく』をみた。名作中の名作だと思った。高峰秀子と小林桂樹と原泉と子役の家族のつつましい愛情。戦争から戦後まもなくの貧しさを懸命に生きる姿に、手話を通じて白黒の画面に文字で何を言っているか教える方法が、さらにつつましい雰囲気醸し出していた。今朝は『なつぞら』でも、働く女性と妊娠出産の戸惑いを広瀬すずが演じていたが、昨夜の映画と重ね合わせるとどうだろう。人間の強さと社会保障との兼ね合いについて少し思った。

<8月25日>

久しぶりの連休。この間に某ネット婚活でいいね！がきて期待したが消滅した。日々ばかり過ぎて、展開がない。ネット婚活では競争が起きて負け続けるパターンに陥る。それを打破するために、『婚難救助隊』を始めたのだ。だがどう進展させていいかわからず、しかし、午前中にユーチューブからの宣伝はアップロードしてしまった。萩原健一追悼特集を日本映画専門チャンネルから録画しておいたのを昨夜観た話などを取り入れたが、原作者の石川達三さんは、以前から現在に至る性モラルの崩壊現象を憂いていた。だから婚外性交渉からの妊娠は悲劇に終える作品になる。こうしたことをネットで書いてもわからない女性たちがいてショックだったのを思い出す。そこまで性は迷走してしまった。迷走していなければこんなに結婚できない社会になるわけがない。

<9月12日>

短信のほうに書くか迷ったが、台風15号に直撃され、主に千葉県ではまだ停電や断水が多数残っていて、まだ暑いので相当大変だろうと思う。私の茨城県霞ヶ浦付近でも千葉県の後から直撃され、瓦がとび、木が折れ、当日は通勤中にトラックが2台横転していた。昨日今日と連休で、今日になりだいぶ痛みがひいてきたが、台風当日と翌日はエレベーターの一部が止まり、階段をつかわざるを得ず、続けて両手に物を持ちながら何度も往復し、2万3千歩になったが、そのうち1万歩近くは階段の昇降に費やしたかも知れない。もうぎりぎりだと思ったら、台風の翌日午後3時すぎに電気が戻った。断水も止まった。病院は復旧作業優先だとされているのもあったのかも知れないが、エレベーターが使えるようになると、労力は雲泥の差で、しかし2日間で3キロも体重が落ちた。昨日は外出の用事があり、足の筋肉痛に耐えながら用事を足し、今日は家の中で回復傾向の筋肉痛の中、新聞を読み終え、

男女問題への気づきを再開させようと思う。昨日から地元新聞に掲載されたので、中国産のハクレンという魚のようだが、川の岸に横並びに集まり、数キロにわたり浮いていた。何が原因なのか。新聞も毒の混入ではないと思うが調査しないとわからないらしい。家の前の川に魚が多量に浮いたのは初めてみた。今日は風が涼しいが川の異臭が入ってくる。魚のせいなのか？ちょっと台風トラブルで心身とも少し感受性が揺らいだ感じだが、コンパクトな台風だというので油断していたくらいだが、東日本大震災以来の大きな被災になってしまった。

当日の朝は床下浸水までしたのに義務感で職場に通勤してしまったが、電車通勤の人はアウトだったかも知れないし、普段電車通勤の人達が車を引っ張り出したのか、職場周辺では、ガソリンの供給量が少なくなり、車がスタンドに列をなしていた。信号もまだ消えている交差点が複数あった。明日はそういう面も含めて、普段に近づいてほしいものだ。エレベーターは復旧しているはずだから、体力的には大丈夫だと思うのだが。そして、思うのは、復旧作業には、知識と技術が必要だということだ。福島原発の復旧作業などは原発の知識と技術がなければとてもできない。それは何事にも通じる。私は原発には反対だが。私の個人事業を目指す名前は『婚難救助隊』である。対人援助学会も援助だから、救助と同類かまたは同じといっても良いくらいなのかも知れないが、今の私には、結婚難者を救助するための知識や技術がほとんど無いといえる。だから、ユーチューブなどでとにかく結婚難時代なのだとアピールを蓄積するしか思えない。勉強もだいぶ不足していると思う。明日から勤務日に戻るが、今日の残りのうちに、復旧工事関係者がありがたいのを思い出し、結婚難に関して、私が何か役に立てるようなヒントを探りたい。

<9月16日>

千葉県ではまだ10万戸が電力がストップしている上に、朝から強い雨が降り続けている。私の茨城県霞ヶ浦周辺も電力は復旧しているものの、この雨は心配である。おまけに家の前が川なのだ。

台風15号で床下浸水が起きたばかりだ。婚難救助隊については、休日にユーチューブを一本あげられれば合格にせざるを得ない。お金が運用できるアイデアがまったく浮かばない。安易に金稼ぎに行ってはろくな活動にならないだろう。疲れがとれず、ユーチューブやネットはありがたい。台風15号では一時Wi-Fiもストップしたのはショックだった。

<10月20日>

ようやく落ち着いてきたが、今度は台風19号の影響で避難勧告が出て、避難所で一夜を過ごした。

私は一泊で済んだが、全国的に100名くらいの死者を出してしまう大災害になってしまい、紙一重の状況だったと思う。そして対人援助というと、強度な被災地に行って復旧を手伝っているボランティアのテレビからの映像に、対人援助を実際にしている人たちがいつも出てくるのだと思う。私は勤務先の仕事で精いっぱい精神力しかないのだが、ユーチューブの動画発信で、休日ごとに結婚難問題をどうするかのアピールは続けている。災害援助はお世話になるばかりだが、結婚難の援助を実現するほうは、私の目的だ。

<11月6日>

菊池桃子は私の高校時代のトップアイドルだった。『青春のいじわる』をカセットで繰り返し聴いたものだった。初婚を貫きとおすのが最高だとは思うものの、相手の不倫に嫌気がさしての離

婚の桃子だったが、51歳にして60歳の経済産業省のエリートと再婚とのこと。子供たち2人も後押ししたとのこと。実子を気にしない人であればこういう晩稲からの幸福もあるだろう。防災意識から

ならぬ、浮遊霊としてこの世に残ってしまいそうである。せめて結婚したい人は結婚できる人生社会に現世はなっていたきたいものである。そのために『婚難救助隊』のサイトはある！

結婚難問題への意識へと元に戻していかなば。

<11月8日>

気づけば今年最後の回であったか。編集長からの通知が来たら早急に提出してしまおうと前回同様に思い、これを書いたら送る予定である。昨夜の井上尚弥とドネアの死闘はすさまじかったが、このごろフィリピンとか東南アジア系の女性たちがSNSで直接メッセージをしてきたり、一日に10人もリクエストがきたり、一体どういうわけなのか、日本人の倍もそうした人たちのほうが多くなってしまったようである。今年の1月23日からスタートした『婚難救助隊』サイトであるが、今みたら2958人にカウンターがなっているので、そのくらいの方が閲覧には来たと思うのだが動きは依然として出ない。私の力がないのも要因だろうが、いかに自営でお金を得ながら運営するのは難しいのを感じる。勤務先に感謝しなければいけないだろう。だから自営の方々は大変な能力だと思うのだが、台風などの異常気象で農業関係にしても観光関係にしても億単位で損失が出てしまっているのだろう。私自身も結婚できず非力ながらもサイトを立ち上げて、ユーチューブと某広告で宣伝しているのだから、それはそれで私自身の精いっぱいなのだろうと思う。今年の流行語大賞の候補にたしか、「悔いなどあろうはずがない」というフレーズが入っていたと思うが、誰の言葉だったかという野球のイチローだったか。イチローのほうが年下なのだが、相手はおお金持ちのスーパースターで一仕事やり終えてしまっている。私のほうはこのままでは「悔いなどなからうはずがない」で日本語が正しいのかわからないが、死ぬに死にきれないだろう。富裕